

長岡市長記者会見要旨

日 時：令和5年8月25日（金）午前10時から

会 場：アオーレ長岡 東棟4階 大会議室

【会見項目1：渇水に苦しむ農業者、養鯉業者を支援！ 長岡市渇水対策“第二弾”を実施します】

（市長）

長岡市は、渇水対策の第二弾を実施します。

すでにかん水（水やり）に対して費用の一部を補助する制度を創設して実施しているところですが、今後も高温・少雨が続くと、田んぼのひび割れにより来年の作付けなどにも影響する状況になってきています。このような中で、営農あるいは事業継続に向けて実施する渇水対策の費用の一部を支援するというものが、第二弾の渇水対策です。

まず、養鯉業者が組織する団体に対して、渇水によるひび割れの被害を受けた養鯉池の復旧に要する経費を補助する養鯉池復旧支援事業です。これは市の単独補助事業です。1カ所当たりの事業費が10万円以上150万円以下のものを対象として、補助対象事業費の50%以内を支援します。

次に、県単農業農村整備事業の拡充です。干ばつの応急対策として、用水確保のための工事等を行い、県の補助金を受ける土地改良区等に対して、さらなる上乗せを市が行います。

干ばつ災害復旧対策については、渇水によるひび割れなどの被害を受けた水田の復旧を行い、県の補助金を受ける土地改良区等に対しても、干ばつ応急対策と同様に市が上乗せ補助をします。

今後も市では渇水の状況を見ながら、さらなる負担軽減などの支援が必要な場合にはしっかり取り組んでいきたいと思っております。

（記者）

稲や園芸作物などについても品質あるいは収量の低下といった具体的な影響も出てきていると思いますが、現状の認識や今後の対策についてお考えがあれば、お願いします。

（市長）

私も中山間地の田んぼを見てきましたが、確かに水不足の状況がありました。特に天水田や用水路の入ってない田んぼについては、水不足により一部枯れ始めている状況でした。当然、等級や収量全体が低くなることもあると思いますので、農業の共済制度の運用なども見ながら、必要な対策を考えていきたいです。

（記者）

今回は養鯉池のひび割れの復旧に対する支援ということですか。

（市長）

ひび割れた土地にこれから雨が降ると、中に雨水が入り崩れてきます。それを手当しないと養鯉池自体が崩壊してしまう危険性が出てきたため支援が必要と考えました。

（記者）

現況でどれぐらいの池が危険な状況にあると把握されていますか。また、養鯉業への渇水対策支援は、過去にも行われたことがあったのでしょうか。

（農林水産部長）

山古志、川口地域中心に野池があります。干上がった池から、ひびが入ってきている状

況です。現状、野池にまだ魚が入っている状況もありますので、これから随時、ひび割れの被害が広がってくるであろうと思っています。具体的に何カ所に被害があるということは、今後明らかになる状況です。

過去には平成30年に渇水対策支援の実施をしています。

【会見項目2：9月は「認知症月間」 県内初のミーティングセンターを開設】

（市長）

認知症の人と家族を支援するミーティングセンターを開設します。

今年6月、「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が成立しました。来年度から、9月は「認知症月間」、9月21日は「認知症の日」に定められます。長岡市はこれに先立ち、今年度から9月を認知症月間として、さまざまな取り組み、啓発活動も実施しながら、そして新規事業として、軽度の認知症の人とその家族を一体的に支援する「ミーティングセンター」を開設する方針を当初予算で示していました。すでに2カ所のうち1カ所を開設しており、さらにもう1カ所のミーティングセンターを11月に開設します。

一般的に認知症は、専門機関で認知症と診断された後に、介護認定を申請して、その結果に基づいて介護サービスを利用することになりますが、軽い症状の場合、介護認定や介護サービスを受けることなく、何となく症状があるという中で生活を普通に続ける人が多くいます。国の機関の調査では、認知症と診断された後、介護サービスを受けるまで約1年5カ月間空き、この間は自宅で過ごすという結果が出ています。この期間をどう過ごすかが、その後の本人のケアや家族との関係性を保つ点から、大切な期間だと言われています。その期間を、専門職による支援を受けながら、その後の認知症の進行に備えていくためのものです。

ミーティングセンターは、医師や看護師等の専門職による支援を受けながら、認知症の本人や家族同士が交流したり、家族でそれぞれの思いを話し合ったり、本人や家族が希望する活動を行う場所です。“本人への支援”、“家族への支援”、“本人と家族両方に対する一体的支援”という3つの支援プログラムを実施し、本人の意欲の向上、家族の負担軽減を図り、在宅生活の中で認知症に対する適応力が身につくと期待されます。

センターの対象者、実施場所等は、資料のとおりです。市内の認知症疾患医療センターのある2法人にお願いして、1カ所は7月からすでに実施を始めており、もう1カ所は11月から米百俵プレイス北館の1階で実施します。

なお、認知症月間とした9月の取り組みについては資料などをご覧ください。認知症に対する市民への啓発・理解を深めていきたいと考えています。

（記者）

認知症についてはさまざまな統計があり、2025年には人口の3割が高齢者になり、そのうち2割程が認知症を患うというデータもありますが、今回の軽度の認知症患者についてのフォローアップやサポートに特化して取り組むことについて、改めて意義や目的・効果の説明をお願いします。

（市長）

認知症の前段階や初期段階において、症状の進行をどれだけ防いでいくかということが大きな課題だと言われています。家族も経験のない認知症に戸惑い、適切な対応ができないケースがあり、それがその後の症状の変化に大きな影響を与えるとも言われています。その期間に情報提供やトレーニングを受けていくことは、大きな意味があると言われていますので、認知症の進行を遅らせることや、周りの人のケアが届くようにしていきたいというのが今回の支援のねらいです。

(記者)

ミーティングセンターの開設は県内初の取り組みとのことですが、県外の自治体を参考にしたのでしょうか。

(長寿はつらつ課長)

県内では初の取り組みですが、県外でモデル事業をしていたところがあります。

【会見項目3：高齢者と基礎疾患のある方は積極的な接種を オミクロン株XBB対応ワクチンによる追加接種を開始】

(市長)

新型コロナウイルスオミクロン株XBB対応ワクチンによる追加接種を始めます。

この度、国が令和5年秋開始接種を決定いたしました。そこで長岡市も市内の医療機関での個別接種を9月20日から、集団接種を11月3日から開始したいと考えております。

追加接種の対象は、初回接種を終了した生後6カ月以上のすべての年代の人で、1人1回接種が受けられます。なお、65歳以上の高齢者と基礎疾患のある人には、予防接種法上の努力義務と接種勧奨が適用されますので、積極的に受けていただきたいと考えております。

対象者数は合計で約21万6,000人と見込んでいます。

接種券を本日から順次発送します。発送対象は、現在実施中の春開始接種や、昨年秋以降にオミクロン株対応ワクチンを接種した人で、現在接種券を持っていない人です。

個別接種は、9月20日以降接種券が届いた人から、かかりつけの医療機関、或いはお近くの医療機関で、自身で予約して順次接種を受けていただきます。

集団接種は、5月と6月に実施した集団接種を受けた65歳以上の人を対象に、11月と12月に実施します。集団接種の対象者は会場と日程を指定した案内を10月6日以降に送付します。

なお、まだ春開始接種やオミクロン株対応ワクチンを接種していない人は、今回接種券は発送しません。手元に未使用の接種券をお持ちの人は、その接種券で個別接種を受けていただくこととなります。その他、接種の基本的な進め方や、初回接種がまだの人の接種については、資料のとおりです。

このワクチンは現在流行中のオミクロン株XBBに対して、今までのワクチンよりも高い効果があると期待されていますので、特に高齢者や基礎疾患のある人は、積極的なワクチン接種を検討していただきたいと思っております。

(記者)

新型コロナウイルスが5類に移行した一方で、昨今、感染が広まっている状況だと思っておりますが、改めて接種についてどのように啓発を行っていきますか。

また、これまでの集団接種の際に、会場に来られない人がいたことで解凍したワクチンを廃棄するなどの問題がありましたが、運用の面で工夫していることがあれば教えてください。

(保健医療課長)

まず、感染状況を踏まえた接種の呼び掛けについてですが、感染者数は7月下旬以降、長岡保健所管内の定点あたりの感染数が増加傾向にありますので、人との接触が増えるお盆前に市の公式LINEを通じて感染拡大の注意喚起を行ったところです。あわせて、今行っている春開始接種の接種勧奨も行いました。秋冬になると感染拡大の恐れがありますので、高齢者、基礎疾患のある人など重症化リスクの高い人に、積極的に接種勧奨を行っていきたいと思っております。

次に、春開始接種の集団接種の際に、ご案内した接種会場に来られなかった人が多い

たことが報道されていましたが、接種の日程を早めにお知らせすると忘れてしまうこともありますので、今回は接種日の間近にお知らせするよう工夫しています。

【会見項目4：インターンシップやボランティア活用、ながおかペイとの連携も 求職者と企業とのマッチングシステムが9/1稼働】

（市長）

求職者と企業とのマッチングシステム「ながおかマッチボックス」を9月1日に稼働します。

市内を就業地とする1日あるいは数時間単位の求人を集めて、ライフスタイルに合わせて働きたい求職者と企業をマッチングするシステムです。このシステムによって市内の慢性的な人手不足の解消や働き手の確保、長期的に長岡で働く機運を醸成します。子育て世代や学生、高齢者の働き方の選択肢を増やして、誰もがいきいきと働ける環境をつくりま

す。この事業は、長岡をフィールドとしたオープンイノベーションの取り組みの一つに位置付けています。今年度は実証実験的に行いながら、利用者ニーズが高くなることが確認できれば、来年度本格導入していきたいと考えております。

市内の学生や、市外に進学した学生の長期休暇を利用した体験就業のメニューを作って、学生の市内企業への認知度を上げて、市内就職、Uターン就職にもつなげていきたいと思ひます。今後、IT系、デザイン系など、学生が就職先として求める職種も増やしていきたいと考えています。また製造業などさまざまな業種の新しい求人も掲載しながら、長岡で働く魅力も伝えていきたいと考えております。

このシステムの提供事業者である、株式会社Matchbox Technologiesの佐藤社長から、具体的に説明していただきます。

（株式会社Matchbox Technologies 佐藤代表取締役）

システムの仕組みと今年度の実証実験の目標、現在の申し込み状況を共有します。

「ながおかマッチボックス」は市公式の求人サイトで、1日単位、数時間から柔軟に働けるサービスです。マッチングの仕方は直接雇用です。割増賃金や休業手当が発生する場合でも、システム上で計算して自動的に支払いがされます。

ユーザーインターフェースはとても簡単になっており、年配の人でもLINEを使えるようであれば求人の応募、勤怠の申請ができます。幅広い世代の眠れる労働力を掘り起こして、市内企業の助けになりたいなと思ひています。

企業の求人掲載は無料でできます。ただし採用した時のみ課金、採用手数料が発生します。その採用手数料により、「ながおかマッチボックス」の運営費、システム料を全額捻出することを目指していきます。

採用後から源泉徴収票の発行まで、すべてのプロセスをシステムで各社の設定に合わせてできるので、個人事業主でも、負荷なく求人の掲載から勤怠管理、労務処理までできます。働いた人は勤怠が確定すると、好きな時に給与の申請ができ、即金性も高くいろんな人が活用できると思ひています。

「ながおかマッチボックス」には、大きく2つの求人タイプがあります。一つは単発バイトの求人です。企業が繁忙期などに地域の人々からサポートを得たいときに掲載されます。採用後、双方の同意があれば、長期雇用につながる可能性もあります。もう一つはキャリア体験の求人です。長岡独自の特徴を活かして、地元で学び、そのまま就業する機会を提供し、地元で就職を実現させる、初めての取り組みです。長岡市と協力して実現させたいと考えています。

次に、利用料金についてです。採用ごとの採用手数料、労務処理、銀行振り込み手数

料、給与の立替手数料が発生します。時給が1,000円で4時間の勤務で採用した場合、事業者の負担は約1,300円になると考えられます。ただし、開設から3カ月間の11月30日までは採用手料を無料としており、多くの事業者に試してもらいたいと考えています。

年度の計画は、9月から開始し、来年3月までの目標で、事業者数は80、求職者数は1,600人程度を目指し、就業件数は1,900件を目標としています。求職者への支給給与額は約800万円で、供給される労働時間は約8,500時間を想定しています。

8月24日時点で、すでに26事業所と22法人から利用申し込みがあります。長岡らしい多様な業種が含まれており、デザインやIT関連の求人も掲載されています。ますます多くの事業者に参加してもらい、地域の人たちが主役の総合求人プラットフォームを目指し、システムをサポートしていきたいと思っています。

(市長)

今後は、ボランティア分野での活用も考えています。長岡まつりや寺泊の海岸清掃といったボランティア募集について、交通費などの費用弁償、謝礼の支払いをこのシステムで行えば、きめ細かく募集ができると考えています。物価高騰の中で、長岡市も行政の仕事を学生向けのアルバイトで出して、学生が、自分の空いた時間で働き謝礼を受けるような活用も考えていきたいと思っています。

また、働き方改革に関連した別の項目になりますが、「はたプラチナ賞」の創設について本日、報道リリースさせていただきました。ながおか働き方プラス応援プロジェクト、通称「はたプラ」に取り組む模範的な企業を表彰して、ぜひその事例を広めていきたいというものです。資料にある3人に審査をお願いしながら、特に今年度は女性の働き方改革という視点も持ちながら、応募を募りたいと思います。ぜひ地域企業のロールモデルとなるような取り組みを応募していただきたいと考えています。

(記者)

試行から始めて本格運用に入るという中で、事業者の登録数や採用件数などの目標があればお願いします。

また、長岡オリジナルのマッチボックスの使い方について、もう一度お聞かせください。

(株式会社Matchbox Technologies 佐藤代表取締役)

目標について、事業者数は9月開設時に20、年度末には80の事業者が参画する計画です。登録者数は9月開設時に227人、年度末には1,591人を獲得する計画です。初月の求人掲載件数が500件、応募件数が136件、就業件数が68件を想定します。月を追うごとに事業者、登録者、掲載件数、マッチングが活発になっていくという計画です。

長岡独自の取り組みについて、まず学生に特化したキャリア体験です。学生に地元企業に就職してもらうための取り組みです。県内または県外から学生が来て、そのまま地域のすばらしい企業に出会って就職するという循環の成功事例を作りたいと思っています。

次に、一つの人材総合プラットフォームにしていく構想です。就業のためだけのツールでなく、ボランティア活動にも活用していく構想は、長岡の独自の戦略だと思っています。

【会見項目5：物価高騰・消費喚起に向けた「ポッキリパスポート・プレミアム」 「ながおかペイ・限定ポイント」をプレゼント】

(市長)

長岡商工会議所、長岡地域商工会連合、長岡市が連携して実施する、今年で7年目となる「ポッキリパスポート・プレミアム」、通称ポキパスが9月1日からスタートします。

今回はこれまでの紙のクーポンに加えて、長岡市デジタル地域通貨「ながおかペイ」のポイント500円分を利用者全員にプレゼントすることで、より一層の市内消費循環を図ります。事業主体である長岡商工会議所の大原会頭から、事業のご紹介をお願いしたいと思います。

(長岡商工会議所 大原会頭)

ポッキリパスポート事業は、各事業者の販売促進、低迷している消費を喚起する目的で行うものです。市内のさまざまなジャンルのお店から、“税込みのポッキリ価格”の商品を提供する期間限定のキャンペーンです。今回は過去最多の390店舗が参加します。

ポキパスはお得なサービスを受けられることだけではなく、スタンプラリーも開催します。また、長岡市の市政だより9月号と一緒に配布するポキパスの冊子には1,000円分のクーポンがついています。このクーポンは、冊子に掲載されているサービスを含めて、参加店の商品やサービスにお使いいただけます。また、今回は新たに500円分のながおかペイ限定ポイントもご利用いただけます。これらを通して、これまでも増して消費喚起していくことができるのではないかと期待しています。

ぜひ多くの皆様からご利用いただき、長岡の経済の活性化にご支援いただくことをお願い申し上げます。

(市長)

ポキパス実施期間中に、ながおかペイの各キャンペーンも実施しておりますので、相乗効果で、一層の消費喚起が図られるのではないかと考えております。

本事業による経済波及効果は約4億円と見込んでおります。ポキパスだけではなく、さまざまな取り組みでながおかペイを活用いただき、市内店舗と、幅広い世代の皆様のデジタル化、キャッシュレス化の促進につなげていきたいと考えております。

最後に、「ながおかペイ・限定ポイント」の取得方法を実際に見ていただきたいと思っております。長岡市デジタル地域通貨協議会の事務局でもある長岡市共通商品券協同組合の高木会長からご案内いただきます。

(長岡市デジタル地域通貨協議会 高木会長)

ポキパス冊子の裏表紙に「ながおかペイ・限定ポイント」付与のQRコードがあります。ながおかペイのアプリの「その他」をタッチしていただき、「どこでもポイント」をタッチしていただきますと、カメラが起動いたします。そのカメラでポキパス冊子の裏表紙面のQRコードを読み込みますと、500円分のポイントが付与されます。

(ながおかペイ・限定ポイント付与の操作実演)

(市長)

ながおかペイ・限定ポイントは、スマホ1台につき500円付きますので、ご家庭に4台スマホがあれば2,000円付くこととなります。ぜひ多くの皆様からご活用いただきたいと思っております。

(記者)

7年目となるポキパスの取り組みをどのように認識していますか。

(長岡商工会議所 大原会頭)

ポキパスにクーポンが付くようになったことと、市政だよりと一緒に全戸配布されることで利用率が上がり、昨年は50%程度でした。今回の参加390店舗のうち109店舗が利用可能な「ながおかペイ」の限定ポイントもあり、さらに利用率が上がると期待しています。

(記者)

初めてポキパスでながおかペイと連携することについて、例えばスマホに使い慣れていない高齢者にもスマホを使うきっかけになるのではないかと思いますがいかがでしょうか。

(市長)

これからは、防災情報の提供も含めて、地域の人との繋がりなどでも高齢者ほどスマホが役に立つと思っております。すでに始めている高齢者のスマホ教室などをさらに広げて、誰もがスマホを使える長岡市になるといいと思っております。

【同時リリース：「オープンから1か月 米百俵プレイス ミライエ長岡 来館者5万人突破」

「ミライエ学生来館キャンペーンほか学生生活動支援事業を実施」】

（市長）

米百俵プレイス ミライエ長岡が、7月22日のオープンから1カ月経ちましたので、利用状況を報告させていただきたいと思っております。

1カ月で延べ5万4,717人が来館いただきました。この施設は機能を限定したものではなく、どのような使い方があるかを利用者と一緒に考えながら展開していくものです。いろいろな評価や要望をいただきながら、今後さらにミライエ長岡の利用が広がるいいと思っております。

現状では、多くの皆様から活用いただいていると思っておりますが、9月にミライエ学生来館キャンペーンも行いながら、年間を通じて、ここに多くの市民の皆様、企業の皆様が集うような空間に育てていきたいと考えています。

【その他の質問事項】

（記者）

昨年11月に発生した鳥越クリーンセンターでの死亡事故について、ご遺族の方が昨日、与板警察署に長岡市職員に対する業務上過失致死容疑の告訴状を提出されました。改めて市としての受けとめをお聞かせください。また、告訴状の提出理由に、市からの説明や報告が十分ではないということも挙げられていました。今後どのように遺族と向き合っていくかについても考えをお聞かせください。

（市長）

この件については、与板警察署で捜査中ということですので、これまで同様に、市としては全面的にこの捜査に協力していきたいと思っております。また、そういった司法の動きを踏まえながら、ご遺族の方々に、今後どのように対応させていただくか考えていきたいと思っております。当面は、警察の捜査に全面的に協力していきます。

（記者）

長岡まつり大花火大会についてお聞きします。今年の観覧者数は2日間で計29万5,000人と昨年より1万5,000人多かった一方で、チケットの送付をめぐるトラブルがありました。今年の花火大会を市としてどのように総括しているかと、来年以降の目標などあれば聞かせてください。

（市長）

今年の花火大会は、物価高騰の中でも、多くの方から観覧席券を買っていただき、また市民の皆様のご協力をいただいて、大きな事故なく開催することができたことを本当に嬉しく思っております。市内の交通状況も、激しい交通渋滞などはなかったと警察から聞いておりますので、平穩に、盛大に開催することができたと思っております。

テレビ中継などによる花火鑑賞も定着してきたと思っており、会場に行くだけではなく、いろいろな形で楽しんでもらえる花火大会ができたのではないかなというふうに思っ

ております。来年度に向けた議論は、今後出てくると思っております。

(高見副市長)

チケット誤送付の問題につきましては、チケットの再発行が当日までに間に合いましたので、ほぼ混乱なく現場で対応できました。トラブルは拡大せずに済んだと思っております。来年に向けて、そういった間違いが起きないように、しっかりと準備していきたいと思っております。

観客動員数につきましては、今年の有料観客席はほぼ完売でした。数字自体を増やすことは難しいと思いますが、市民の皆様は工夫されて、安全な場所から、会場外でもご覧いただいております。従来発表していた100万人という言葉がどう検証できるかはわかりませんが、花火大会の動員数というものが有料観客数だけで良いのかというご意見もいただいている中で、どれだけの方に花火を見ていただいたかというのを再精査していきたいと考えております。

(記者)

長岡花火の関連で一つ伺います。8月2日・3日、道の駅ながおか花火館がキャンプカーなどで長時間占有される現象が見られました。そのため、トイレや飲食、見学などが、なかなかできなかったという他の利用者の声がありました。国交省の施設ではありますが、来年に向けた市長の認識をお伺いします。

(市長)

国交省と協議しながら長期間にわたる占有が、本来の道の駅の機能にそぐうのかということも含めて対策を考えていきたいと思っております。駐車場自体の規模も含めて、全体として混乱があまり生じないような形を探していきたいと思っております。

(記者)

米百俵プレイス東館の建設工事について、先般行われた3回目の入札も、再入札も含めて不調に終わったと聞いています。工期の遅れの可能性が出ている中で、現状の認識と今後の見通し、対応についてお聞かせください。

(高見副市長)

現在、入札状況の調査を行っているところです。この調査結果によって、例えば工事費の増額が必要であるということになれば、さらに再入札に時間をいただくことになろうかと思っております。西館がオープンして好評をいただいておりますので、工期が遅れることは、全館オープンを期待されている市民の皆様や関係者の皆様にご迷惑をかけることになると思っております。できるだけ早い落札、工事業者の決定に向けて、しっかりと調査をして、その結果を踏まえた対応をとっていきたいと考えております。

(記者)

入札状況の調査結果によっては、予定価格の再設定もあり得るということでしょうか。また、2025年中の開館予定は今現在で変わらないかも改めてお願いします。

(高見副市長)

調査結果によって必要であれば予定価格を見直すこととなります。予定価格を見直すということになりますと再入札の手続きになりますので、工期への影響は出てくることとなります。調査の結果によって対応を考えていきたいと考えております。

(記者)

次の入札の時期は、現段階で未定でしょうか。

(高見副市長)

未定です。